

2022年 3月10日

韓国のセパレータ工場で カーボンニュートラルに向けた取り組みを開始

帝人グループで、韓国においてリチウムイオン二次電池用セパレータを製造販売しているテイジン・リエルソート・コリア（以下、TLK）は、2022年3月よりカーボンニュートラルに向けた取り組みとして、工場内での使用に再生可能エネルギー由来の電力を導入するとともに、ガスについてはカーボンオフセット(*)を実施します。

(*) カーボンオフセット：企業などが、削減困難な自らのCO₂排出量を、植林や森林保護などの活動や、水力・風力などの再生可能エネルギーの導入により、削減・吸収された温室効果ガスをクレジットとして取引することで排出量を埋め合わせること。

このたびTLKが導入する電力は、韓国再生可能エネルギー政策（K-RE100）の1つであるグリーンプレミアムを活用することにより韓国電力公社から供給される再生可能エネルギーです。太陽光や風力、水力など自然由来の電力であることから、エネルギー生産に際してのCO₂排出はほとんどありません。TLKは当初、1年間に使用する電力の約30%相当を導入し、その後さらに割合を高めて、2025年には全量を再生可能エネルギーとすることを目指します。

一方、TLKは工場内でのガス使用によるCO₂排出量については、それを相殺するためのカーボンオフセットの実施に向け、世界の再生可能エネルギープロジェクトにより生み出されたCO₂排出削減効果を、三井物産株式会社を通じてクレジットとして購入することとします。今般はTLKが使用するガスの約1年分相当を購入し、今後も継続することにより、カーボンニュートラルの取り組みを推進していきます。

帝人グループは、自社のCO₂排出量を2030年度までに2018年度対比で30%削減し、2050年度までには実質ゼロにすることを目標として掲げ、グリーンエネルギーの導入やエネルギー消費量の削減などに取り組んでいます。持続可能な循環型社会の実現に向けて環境への取り組みをさらに強化し、長期ビジョンである「未来の社会を支える会社」になることを目指していきます。

以 上

【 当件に関するお問合せ先 】

帝人株式会社 コーポレートコミュニケーション部 TEL: (03) 3506-4055